## 第5章 施策の推進体制

### 1 計画推進におけるそれぞれの役割

本計画の推進にあたっては、多様化したニーズにきめ細やかに対応していくためには、行政からの一方的なサービスの提供のみでは困難であり、こどもまんなか社会の実現に向け、行政が抱える課題に柔軟に対応していくためには、各主体からの意見を施策に反映しながら、それぞれの役割を果たしつつ連携していくことが必要です。また、すべての市民が、こども・子育てを「社会全体の問題」として認識し、関与していくことも重要であることから、地域、事業者、学校をはじめ「地域社会全体でこども・子育てに関わる」という意識づくりに向けて、さまざまな機会を通じて市民の理解を深め、連携・協力を図るよう努めていきます。

①子育でについての第一義的責任を

有することを認識し、深い愛情をもってこどもを健やかに育てる。 ②家庭が、こともの人格形成や基本的

責任を持つ。

①地域のこどもたちの定期的な見守り機会をは保し、児童虐待等の早期発見・早期対応につなばる。 ②子育で中の親子が気軽に集い、相互交流や子育での大安・悩みを相談できる場を確保する。

生活との両立が図られるよう雇用型の整備に努める。 一 ②市が実施する施策に協力・連携をよう努める。

# こどもまんなか



- ①多様なニーズに応じた切れ目のな
- いこども施策を推進する。
- ②地域住民や関係団体が実施することも・子育で支援活動を支援する。
- ③こども施策に関する市民の関心と理解を深め、連携・協力して推進する。

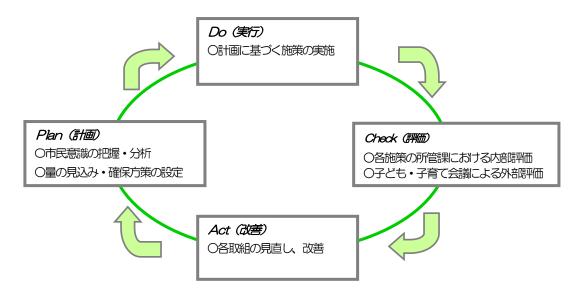
①こどもの成長に応じ、こどもが主体的に学び、育つことができるよう支援する。 ②地域社会や家庭との連携を十分に 深めながら、多様な体験を通じて「生きる力」を育む教育を推進する。



#### 2 計画推進の体制

本計画を実効性のあるものとするため、栃木市子ども・子育て会議を定期的に開催し、その中で計画の進捗を管理しながら、着実に計画を推進します。また、計画に基づく施策の推進にあたっては、さまざまな社会状况などを踏まえながら、PDCA (PLAN・計画→DO・実行→CHECK・評価→ACT・改善)を行うことにより目標の実現をめざします。

Plan (計画)	目標を設定し、目標達成に向けた活動を立案する
Do(実行)	計画に基づき活動を実行する
Check (評価)	活動を実施した結果を把握・分析し、考察する(学ぶ)
Act(改善)	考察に基づき、計画の目標、活動などの見直しを行う



### 3 計画の評価

栃木市子ども・子育て会議において、本計画に基づく施策の進場が兄等に関する評価や検証を行う とともに、毎年度、計画の実施が兄を公表します。また、施策の実施・評価にあたっては、施策の対 象となるこどもや子育て当事者等の意見を反映させるための方策を検討します。

なお、関連計画の見直しな、こども・子育でに関する環境の変化等により、本計画の見直しの必要性が生じた場合には、計画期間の中間年を目安として、計画の見直しを行います。